

今年初めから山梨経済同友会の女性メンバーを中心とする会合で、高齢化・人口減少社会に備えたまちづくりに関する議論を始めています。このような取り組みに着手したのは、県内の人口維持・増加に向けた努力が必要で、相応の確度で想定される将来の人口減少に備えて、どのような準備を進めていくべきなのか、女性目線で問題意識を高めておくことが有益と考えたからだ。

人口問題研究所の推計に基

展望台

長江 敬

衝撃的な県内の子ども減少

県内の15歳未満の子どもは、現在の約10万人から40年以降は6万人強へと、実には4割も減少する見通しが示されているのだ。子育てや教育に関しては、2040年には64万人は、現状では増加する保育まで減少する。また、同時点での総人口に占める老年人口比率は40%を上回る。特に関心されるのが、子ども数の減少に備えることである。同研究所の推計では、

また減少する。また、同時点での総人口に占める老年人口比率は40%を上回る。特に関心されるのが、子ども数の減少に備えることである。同研究所の推計では、

（日銀甲府支店長）